



第4部
計画の実現に
向けて

第1章 計画の推進体制

1. 多様な主体の共感・協働

- ・この計画は、様々な変化に対応しながら、より良いまちづくりや快適な暮らしを実現するため、将来像や基本的視点（変化の「先」を見る、あるものを活かす・つなげる、試してみる）を町民、事業者、各種団体、行政などの多様な主体が共有し、共感をもって、協力しながら取り組むこととします。
- ・この計画に基づいて策定される各種分野別計画、実施計画等は、内容や取組状況について、各主体と適宜情報を共有し、町全体で計画を推進します。

2. 分野横断的な視点

- ・この計画は、一つひとつの施策を網羅する「事業管理型」の計画ではなく、多様な主体が協力しながら取り組む共通の目標を中心とした「目標管理型」の計画です。
- ・一人ひとりの生活視点から整理したライフステージ別の目標は、これまでの計画に見られた政策分野や既存の枠組みにとらわれることなく、分野を横断して連携し、必要な取組を進めていくことが大切です。

第2章 計画の進行管理

1. 変化への柔軟な対応—進化する計画—

- ・現代社会においては、社会状況や環境は、計画期間中もどんどん変化していきます。また、計画期間が長期にわたるほど、策定段階では分からなかった情報や新たな知識、便利な技術等も多くなります。
- ・この計画は、20年先を見据えた「目標管理型」の計画として、基本構想を実現するための具体的な手段などは各種分野別計画等に委ねることで、変化する状況に合わせた判断と、各取組の最適化を進めます。
- ・この計画は、策定時に位置付けた個別施策の進捗状況を管理する計画ではなく、各指標によって「全体として目標に近づいているか」を確認するとともに、社会状況や環境の変化を踏まえて手段を最適化する、策定後も進化する計画です。

2. 町民視点による進行管理

- ・この計画は、「10年間、何をどれだけやったか」ではなく、「10年後、人がどう感じるか」という基準でまちづくりを測ります。
- ・前期基本計画のKPIについては、「達成できた／できなかった」という達成度評価に留まらず、目標達成に向けた協力やコミュニケーションの促進、各主体がともに考えていくためのツールとしても活用します。
- ・計画の進捗状況と成果については、町広報やホームページなどを通して、できるだけ分かりやすく公表するとともに、広く町民等からの意見を把握し、その反映に努め、計画を着実に推進します。